

PLUS+

情報誌

法務会計「プラス」

no.33

Judicial
Affairs

法務・会計プラザ20周年記念特別企画

スペシャル対談!

弁護士法人 太田・小幡総合法律事務所 太田勝久 / 司法書士法人 第一事務所 田澤泰明 /
佐藤等公認会計士事務所 佐藤等 / 株式会社北海道アプレイザーズ・ファーム 大植隆

プラザ最新NEWS!

株式会社NEXTリレーション

topics

法務・会計プラザってこんなところ

祝! 20周年
D

法務・会計プラザ20周年記念特別企画

スペシャル対談!

太田 勝久 × 田澤 泰明 × 佐藤 等 × 大植 隆

法務・会計プラザ設立20周年を記念して、各事務所の代表4名による公開対談を開催!
プラザの成り立ちや今後の展望など、さまざまなお話をお聞きしました。

司会進行: 弁護士法人 太田・小幡綜合法律事務所 札幌事務所所長 山下 剛



太田 勝久

弁護士法人 太田・小幡綜合法律事務所



田澤 泰明

司法書士法人 第一事務所



佐藤 等

佐藤等公認会計士事務所



大植 隆

株式会社北海道アブレイザーズ・ファーム

山下 本日は法務・会計プラザ20周年記念と題しまして、法務・会計プラザを構成する各事務所の代表の方をお招きし、対談を行います。それでは早速ですが、20周年記念を迎えた法務・会計プラザの成り立ちについて伺っていきたく思います。今からさかのぼること平成5年、法務・会計プラザの前身となる法務プラザが設立されました。その当時は太田綜合法律事務所と第一合同事務所とで立ち上げられたとお聞きしておりますが、太田先生、そのときの経緯伺ってもよろしいでしょうか。

太田 私の事務所がこの道銀ビルに入ったのは、昭和62年で、7階に40坪ぐらいの事務所を作っておりました。たまたま隣の部屋が50坪空き、借りることになったのですが、いろいろ考え、ぜひ司法書士の事務所の方に借りていただきたいということで、田澤先生とは青年会議所で一緒に活動したこともあったので、声を掛け、隣に引っ越していただきました。

山下 田澤先生、その当時のお話を聞かせていただけますか。

田澤 一番最初、私は美園の実家の上で事務所をしていました。そして平成2年にニューオータニの向かいのビルに、加藤邦彦司法書士、岡島吉秋土地家屋調査士と私の3人で事務所を開きました。それから2年ぐらい経ち、平成4年に太田先生より、隣が空いたのでどうかというお話がありました。太田先生とは青年会議所で会ったり、岡島先生が太田先生と南高校の同期生だったという関係もあり、一緒にという話になり、平成5年の4月からこの場所に移りました。

山下 太田先生、その当時の田澤先生の印象はどうでしたか。

太田 今とあまり変わらないかもしれない(笑)。当時ね、私も40代、田澤先生も40代で、まだ若くて血気盛んでしたよね。せっかく弁護士事務所と司法書士事務所が隣同士で仕事をするようになったので、協力をして新しい連携の仕方を模索しながら、いろいろと議論し、知恵を出していった。そういう始まりでしたね。

山下 田澤先生は太田先生の印象はどうでしたか。

田澤 今と変わらず、迫力がありました(笑)。平成5年は私が40歳です。太田先生は5歳年上ですから、現在の中堅の方のもうちょっと上の年代からこの事務所を始

めたということです。

山下 それぞれ事務所を構え、それとは別に法務プラザという名称をお付けになっていますが、この名称に込められた意味合いなどを、太田先生、教えていただけますか。

太田 弁護士事務所と司法書士事務所が同じ場所にいるということですから、基本的には法務と一緒にやろうということを考えました。そして、その場を私はプラザと名付けようと考えました。プラザというのは広場という意味です。同じ場でお互いに連携を取っていこうと。ただ、やはり弁護士事務所と司法書士事務所というのは、仕事の仕方が違います。事務所としてはしっかり自分の事務所を維持していきたい、しかし、同じ場と一緒に共有しながら、どうやってお客様のために我々が貢献できるかを考えよう。じゃあ、そこは一つの会社でもなく、一つのただの場所ではなく、プラザという一つの結合体としてお互いに盛り上げていこうと、そんな思いで、法務プラザという名前を付けました。

山下 田澤先生はいかがですか。

田澤 この場所に移ったのは、もともと、船井幸雄さんの本をずっと読んでおり、太田先生ももちろんその本を読んでいらっしゃいました。その中で、差別化の八要素があり、一番大事なのが立地だと。それから規模、ブランドとつながります。それを考えて、今では駅前通りが中心になっていますが、20何年前の当時はここが本場の札幌の中心地で、さらに北海道の中心地です。だから、立地としては一番いいかなと私は考えました。

それと、やっぱり規模、それからブランドということで、一番いい場所に事務所を置いて、品揃えをする。お客様がここに来たら全部揃うという考え方です。その考えは今も変わっておらず、プラザというのが、そこにお客様を集めるということですから、非常にいいネーミングだと私は思いました。

山下 設立された法務プラザですけれども、その4年後、法務・会計プラザに改装されることになりましたが、その際に佐藤等公認会計士事務所が参加されたとお聞きしております。佐藤先生、プラザに加入されることになった経緯をお話いただけ



ますか。

佐藤 きっかけは、手稲開発という再開発事業があり、その事業に私が長く関わっていた際に、担当された司法書士の先生が田澤先生でした。再開発ですから、5、6年と長期に渡るため、どのタイミングでお会いしたか正しく記憶にないのですが、その後、私の当時の事務所に太田先生と田澤先生が訪ねていらっしやいました。その時の印象はとても圧迫感があった。応接室は広がったのですが、随分狭く感じられました(笑)。

ただお声掛けはいただいたのですが、2年ぐらい移転できず、2年もすると普通諦めると思うのですが、なぜ、私でなければ駄目だったのか、ここで聞いてみたい。(笑)

山下 田澤先生、佐藤先生だった理由はありますか。

田澤 ただの専門家じゃなくて、もうちょっと広い視野で考えられる会計士さんがいらっしやらないかなっていうのは、太田先生と共通の考えでした。その中でコンサルティングをされていた佐藤先生が適任ではないかと思いました。

山下 太田先生はいかがですか。

太田 そのとおりですね。会計士の先生というのは、監査法人系の先生、それから、税務処理を専門にやっておられる先生は確かに多いですが、やっぱりお客様に対して、コンサルティングをしながらお客様の問題解決をしていくという先生はそれほど多くはありません。そこを佐藤先生の事務所はやっておられるので、われわれと一緒に仕事をしていただければ、きっとお客様のために、税務処理だけではなく、財産問題も含めて、いろいろなサービスが提供できる。そこが一緒になると強みになるのではないかなと思ったのです。

山下 その後法務・会計プラザを設立することとなりますが、始めた当初はどのような感じだったのでしょうか。佐藤先生、いかがですか。

佐藤 コンサルティングという期待に反して、私は移ってきて、コンサルティングを縮小し会計事務所に転換しました。本業は相続の対策などを含めてコンサルティングをしていたのですが、移ってきた年が1997年、拓銀が破綻した年です。コンサルティングというのは、下がり口と上がり口には仕事が増えますが、底辺となると仕事なくなるという特性があります。そんなこともあって、会計事務所に少しシフトしよう。拓銀が破綻した年という時代背景もあり、太田先生の事務所と破綻の問題、民事再生ということが仕事としては随分多くなり、法務と会計のマッチングがすぐにスタートしていった印象が残っております。

山下 太田先生、いかがですか。その当時の法務・会計プラザの活動はどのようなものでしたか。

太田 佐藤先生のお話のとおり、平成9年は拓銀が破綻した年でした。バブルが完全に崩壊した年でもあります。世の中、特に北海道が大きく転換をしていった年だったと思います。その中で、私たちが一緒に仕事をするようになったとき、時代というものをどのように掴むかをいろいろ考えました。一つは、バブル崩壊の後、日本が情報化社会となり、ネットワークが相当広がってきて、仕事の仕方が変わってきたと我々は肌で感じていたのです。

平成12年は2000年の年で、平成13年は2001年で、21世紀に突入する。そのときにわれわれが考えたことは、この新しい時代に対して、いかに法務・会計プラザが21世紀のポジションを掴むかということです。だから、21世紀のポジションというものを確立していこう。そのために、プラザのあり方というものを、どうしたらいいかをみんなで本当に真剣に考えました。

山下 ありがとうございます。そして、平成20年になりますと、株式会社北海道プレイヤーズ・ファームが参加されることになります。大植先生、その際のことをお話しいただけますか。

大植 私のご縁は、先ほど佐藤先生が言われた、相続対策の会社を作られており、私が鑑定士として仕事をしているときに知り合いました。今から20数年前になります。そして私が会社を設立したのが平成9年であり、佐藤先生が法務・会計プラザに参加した時と重なりますが、その11年後に佐藤先生から、スペースが空いたので、ぜひ参加してほしいというお話がありました。

山下 大植先生から見られて、その当時のお三方の先生というのはどういう印象でしたか。

大植 客観的に見ると、資格者というのは私も含めて、やっぱり「俺が俺が」という、お山の大将を目指す方が多いのですが、3人の関係を見ますと、べったりでもなく遠くもなく、非常にいい距離を保って、この法務・会計プラザというのを運営されているのかなっていうのが、非常に印象として残っています。

山下 法務・会計プラザの一つの特徴が、皆さんが事務所の経営者として、事務所はそれぞれありながら、同時にまた法務・会計プラザを運営しているのですが、その良さ・メリットを各皆様、どのようにお考えでしょうか。

田澤 一番は、お客様にとって使いやすい事務所になっているんじゃないかというのがメリットだと思います。結果として北海道では非常に支持を受けています。あとはこのプラザの形態が全国的に非常に珍しく、船井総研の視察ツアーが2回も来ているくらいです。奇跡の結合と言われており、普通ではなかなかうまくいかない。本当はこうやればいいのは、資格者は分かっているのです。いろんな資格者がやればいいのは分かっているのですが、なかなかうまくいかないというのが現状です。ただ、ここまで20年間やっていて、太田先生とは約25年間やっていますから、ここで例え崩壊しても成功と言えとと考えています。

山下 控え目に言っても、皆さんかなり個性豊かな経営者の方が集まっていますが、20年間にわたって一緒にプラザを続けてこられた秘訣は何でしょうか。

大植 私は半分ぐらいの期間ですけども、やはり関わり方ですかね。独立した組織というのを基本に、アライアンスを組めるところはアライアンスを組む、情報交換するところは情報交換するというのが、非常にうまく機能しているのかなということもありますし、やはりお客様に喜ばれるという面では、やりがいもありますし、その中で個人の成長、組織の成長も遂げてきたのかなというふうには見ております。

太田 僕らが法務・会計プラザを作ったときに、21世紀ポジションということを考えましたけれども、僕らはピラミッド型の大きな組織を作るつもりはありませんでした。つまり縦につながる時代は終わってしまうだろうと。これからは横へつながる時代だと。それからもう一つは、21世紀はみんながリーダーの時代だと考えました。一人一人が専門家として、きちんと自立をしながら、主体的に自分のやるべきものは何なのか。それから、自分の本当の生きがいは何なのか、仕事の意味は何なのか、ということを中心に刻んで自分の使命を果たしていく。その中でやっぱり地域で一番のプロと言われるように、お互いに自己成長していこうと考えました。自分のことにきちんと責任を持った、本物のプロが横につながることに、本当の意味があるのではないかと。

誰かが一番上において物事を決めて、決められたことをやる時代はもう終わったので、それぞれが自分の中に本当にプロとしてやるべき仕事のあり方、それからお客様に対して目指すべき価値というものをしっかり心に刻んで、そして本当の意味でのお客様に対する貢献を、一人一人がやっていく。そういう事務所、そういう個人、プロが横につながっているのがプラザのあるべき姿だと思います。プラザに本物のプロが集まって、お互いに仕事をしていく。世の中はもう既に情報がクローズされる時代は終わってしまっ、あらゆる情報がネット上に展開されている。その情報をどうやって知恵に転化させていくのか。お互いがしっかりと自立をしながら横につながって、お客様の利益をどう図っていくか、お互いに知恵を出し合っ

たところにブラザの醍醐味があったのかなと僕は思っています。

山下 今回20周年を迎えたわけですが、これからの10年、20年、法務・会計ブラザが継続していくとした上で、今度どのような方向に向かうべきか。あるいは、どのようなサービスを提供していくべきであるかという点について、どのような考えをお持ちですか。

田澤 皆さんご存じのように、昨年、船井総研にブラザの今後の20年のビジョンを描いて欲しいと依頼しました。5年、10年という、大体予測がつかますけれど、20年はなかなか予測がつかえません。そこで言われたのは、まず人材の問題、人が少なくなるという問題。IT化がさらに進むということ。それからスタートアップ。この3つを柱にしたほうがいいと言われました。20年後に向けて、佐藤先生の提案ですが、10階でイノベーションブラザというのをこれから始めます。

あとは、ある程度立地もいいし、規模も大きくなった、それから法務・会計ブラザというブランドもできてきた。その中で、お客様の囲い込みではないが、会員化を通じてファンを増やしていくということが大事じゃないかと言われました。さらに札幌の出生率は1.08です。ほぼひとりっ子となってくると、なかなか新築の家は建ちにくい、不動産登記がうちのメインですけれども、登記件数は落ちてくるかなと思っています。さらにこれから15年間死亡する方は増え続ける。団塊の世代が、太田先生がちょうど団塊で、太田先生が死ぬとは言いませんけど(笑)。昭和22年、23年の方が、人口が一番多いんですね。その方が70歳とか70歳を超えてきたとなってくると、平均寿命から考えて、これから死亡される方が15年間増えるということで、うちの事務所もそうですし、法務・会計ブラザ全体で、相続およびシルバー関係業務が10年間程、需要はあるのではないかと考えています。

山下 今後の法務・会計ブラザの10年、20年に対してはどのようなお考えですか。

大植 この4人も、あと数年か10数年か、そろそろ譲るということを考えていかないといけないということの中では、田澤先生が言われたこれからの事業によって、時代を担う中堅の方がどんどん先頭に立っていただいて、一緒にこの法務・会計ブラザを盛り上げていく。そういう意識を持って取り組んでいただければと思っています。

佐藤 今、田澤先生がお話をされましたけれど、船井総研のレポート、3つのテーマがありました。人材・IT・スタートアップという形で、とにかく課題解決領域を広げなさいというのが1つと、もう1つはわれわれの人脈をきちんと次の世代につなぐためのお客様の会員化をなさいと。最後は、ブラザ全体のマネジメントです。専任人材を見いだすべきと。この3つがレポートの柱で、その第1弾として、株式会社NEXTリレーションという会社で、10階にHKイノベーションブラザというものを設置しました。これは今、走り始めていますけれども、そこでやろうとしていることはこの3つです。箱を作って、形を作ったら、皆さんにお渡します。今後はそれを育てていただくことが必要になってくると思います。

その際に、今まで皆さんが日々やってきた、スペシャリストとしての仕事以外の能力が求められる。運営することになると、マネジメントということが必要になってきたり、あるいは外に出て、今までは資格を通してお客様と接してはいたんですけど、それなしに接していくとは、どういうことなのか。そういった能力がこれから次の世代のコアになっていただく人材には必要になってくると思います。

ぜひ手に入れて次の10年、20年に備えてもらいたいと思います。

太田 ブラザには本当に能力の高い中堅・若手がたくさんいらっしゃいます。僕らの経験から言っても、プロっていうのは1人で仕事をしようと思えばできる。ただ、やはり分野が違うプロ同士がお客様の課題に結合してやると、非常に大きな成果ができるし、また、自分自身の仕事の中身も深まるというのが本当のところだと思います。

このブラザにたくさんの能力あふれるプロフェッショナルがいるわけですから、一人一人がきちんと自立をし、チームとしてのパワーアップあるいはブラザ全体をパワーアップさせていくことが大きな課題だと思います。一人一人自分としてのプロの力量を高めながら、やはりチームとしての力をお互いに、どう大きく成長させていくかという課題を持ち、ブラザの力を維持していくような工夫をしてほしいと思います。

山下 法務・会計ブラザの若手・中堅に向けて、アドバイスをお願いします。

田澤 平成13年に始めた頃は、地域一番の専門家の集団を目指しておりました。今では各事務所が、それぞれの分野でほぼ地域一番の専門家になりましたので、次の役割としてはいかに有機的に結合するかです。もう少し具体的に言う

と、4つの事務所に営業の方がいたら、4つの業務を紹介するほうが、営業の方は動きやすいです。1つの司法書士業務に対して営業に行くのではなく、弁護士も社労士も会計士もという営業の仕方のほうが、営業はやりやすいです。また、総務・経理も4つではなく、できれば1つのほうが効率化されるのではないかと。

これからは、いかに有機的に全体の調整を考え、どう発展させていくのかと考えると、もっとも伸びると思います。生産性が上がるということは、他の事務所との差別化、他の各事業との差別化になりますし、そうなってくると、こういうことを考えている事務所と考えていない事務所はものすごく大きな差が出てくるし、IT化になると、さらに差が出ます。今からそういうことを考えてやっていると、大きく飛躍できるのではないかと思います。

山下 最後になりますが、法務・会計ブラザ20周年を迎えまして、各先生方の20周年を迎えるの抱負、または感想でも結構ですので、一言いただいてもよろしいでしょうか。

大植 振り返って20年という節目、私も会社が設立20年という同じ年なのでなかなか感慨深いものがあります。この20年を振り返ると、この法務・会計ブラザでも、いろいろないいことも、悪いことも、それを乗り越えて成長してきたのかなという気がしています。そういう中では、今後も楽しく、わくわくした気持ちで仕事を皆さんと協同してやっていきたいと思っています。

田澤 会社の寿命は30年と皆さん聞いたことがあると思います。今、20年ですから、あと10年で大きく変化させないと、将来の道筋が見えないと感じています。ちょうどいい機会でこういう場を持たせていただいたので、将来を考える、いいきっかけとなりました。これから10年かけて、どういう形でやっていくかというのは、ここまで規模が大きくなるとゼロからではないですから、組織立って考えることができると思います。ぜひ検討していただいて、これから大きく飛躍していただきたいと考えています。

太田 あっという間の20年でした。みんながお客様を抱えて、真剣勝負で一つ一つ一生懸命やっていますけれども、こうやって仲間がいて、決してお互いに拘束するわけではなく、ただし、お互いに信頼があるということの中で、切磋琢磨することができる。それはよからうが、悪からうがとても楽しいですよ。そういう楽しさは本当にありがたいと思っています。

一つ一つの課題を乗り越え、そしてお互いに成長していく、人間としてやりがいを持ってやっていくということは本当にいいことだなと思うので、これからもみんなできっといい仕事をしていければいいなと思っています。

特に中堅の方の奮起をお願いして、とにかく楽しく仕事をしましょう。

佐藤 20年、本当にあっという間でした。ここに座っているメンバーは西田文郎さんの西田塾を受けたり、天下先生の天下塾を受けたり、そういう共通の学びがありました。これは下支えとしてはとても重要ではないかと本日気付かされました。共通の学びをすることによって築かれる土台があると思いますので、何か一つでも二つでも、そういう共通の基盤を作っていくと、さらにいい土台ができて、柱が立っていくのではないかと気付きましたので、本日の最後に皆さんへご提案の一つとさせていただきます。



貴重なお話、ありがとうございました!

プラザ最新NEWS!

株式会社NEXTリレーション



今年6月、道銀ビルの10階に新たな施設「HK・イノベーション・プラザ」がオープンしました。いわゆる“コワーキングスペース”という共同オフィスの形態をとりながら、新しい価値を生み出していくためのシェアオフィス。この場を運営・管理するのが株式会社NEXTリレーション。法務・会計プラザの中堅メンバーを中心に役員が構成され、これまでの枠を超えた価値創造に挑みます。

新たな社会課題の解決に挑む集団

「HK・イノベーション・プラザ」は道銀ビルの10階、広さ約30坪のスペース。大きく4つのコーナーに区切られています。入口そばには3カ所の打合せスペースがあります。カードキーを使って内部へ入ると個室ブースが6個。中央に通路があり、一番奥には大きなテーブルが2個並ぶコワーキングスペースと、Dサポート株式会社のオフィスがあります。

7月末現在、12社が入居・参加しています。業種的には、人材採用・定着の専門家・ITの専門家・WEBサイト運営の専門家・POPの専門家・情報発信の専門家・弁理士などなど。これまで、法務・会計プラザの守備範囲外の各種専門家が集まっています。

現在は、「イノベーション・ミーティング」を月1回開催し、お互いの仕事内容、強みについて相互理解を促進している最中です。また、「イノベーション・マネージャー」として村木事務所の村木宏彰氏によるメンバー全員の個別ヒアリング面談を実施。情報収集につとめているところです。

今後は研究会を立ち上げ実践に移していきます。9月からのテーマは「真の働き方改革は、生産性改革から」。残業削

減・長時間労働の撲滅・むだな仕事の削減など、減らすばかりで本当にいいのか。行動スタイルを変えることや、ムービーやIT、WEBサイトやPOPといったツールを効果的に使いながらインプットやアウトプットの質を高め、結果的に生産性を高めていく。こういったことを本気で学びあうための場です。日程は別表のとおりです。興味のある方はぜひご参加ください。いずれも会場は道銀ビル10階、時間は13時～17時30分を予定しています。



株式会社NEXTリレーション
研究会

テーマ

真の働き方改革は、
生産性改革から

開催予定およびプログラム
(テーマは変更の可能性があります)

月日	テーマ
9月27日 (水)	①働き方改革の現状と問題点と、私たちの取り組みについて ②動画を利用して人材確保と定着力をアップさせる方法の実践的研究 ③PR(パブリック・リレーション)を活用した生産性アップに関する実践的研究 ④新時代のアウトプットとインプットを考える研究会(ワークショップ)
10月19日 (木)	①仕事のマネジメントと仕事のマネジメントという考え方について ②ITを活用した業務改善の事例研究 その1 ③お客様がドンドン集まるwebサイトの作り方の実践的研究 ④新時代のアウトプットとインプットを考える研究会(ワークショップ)
11月21日 (火)	①人の特性を活用した人材力アップの実践的研究 ②ITを活用した業務改善の事例研究 その2 ③POP広告を応用した発信力強化の事例研究 ④新時代のアウトプットとインプットを考える研究会(ワークショップ)
12月19日 (火)	①「真の働き方改革は、生産性改革から」に関する課題設定研究会 ②新時代のアウトプットとインプットを考える研究会(ワークショップ)

弁護士法人 太田・小幡総合法律事務所

お客様を大切に作る専門家として、質の高いリーガル・サービスを提供します。

この度、尾崎祐一弁護士が当事務所を退所され、太田・小幡総合法律事務所の弁護士は札幌事務所4名、東京事務所3名の計7名体制となりました。今後とも、お客様の真の問題解決のため、安心・納得の法務サービスを提供して参る所存ですので、今後とも太田・小幡総合法律事務所をよろしく願っています。

<http://www.oota-law.com/>

司法書士法人 第一事務所・行政書士第一事務所

札幌で圧倒的な実績と規模の法務プロ集団！北海道最大規模の司法書士事務所だからできる幅広い業務範囲とワンストップサービス。

売買による所有権移転登記(土地建物)／建物新築保存登記／贈与の登記／住宅ローン借り換えの登記／抵当権抹消の登記／離婚に伴う財産分与の登記／商業登記手続 会社設立 役員変更／債務整理／過払い金返還請求／相続登記／遺言作成／後見開始申立手続／未収金回収／家族信託／相続手続 提携先行政書士第一事務所

<http://www.tazawa-office.jp/>

佐藤等公認会計士事務所

ドラッカー関連書籍を多数著した所長のもと、お客様の税務・会計支援はもちろんのこと、お客様の経営・財務課題の解決をサポートいたします。

[1]法人のお客様向け業務

・税務／会計顧問(税務申告代行、記帳代行等)
・財務顧問(事業計画策定、財務相談等)・経営顧問(経営相談等)・M&A等の事業再編や会社再建等に伴う企画、実行サポート

[2]個人のお客様向け業務

・税務申告／相談業務(所得税、相続税、贈与税等)・次世代への財産の承継、事業の承継に関する問題解決

<http://www.satou-cpa.jp/>

法務・会計 プラザ

これらを一つの「場」に集約しました。

株式会社

北海道アレイザーズ・ファーム

私達不動産鑑定士は、不動産の適正な経済価値を追求し、鑑定評価額を決定します。不動産の売買や交換、地代や家賃等、不動産の適正な価格をスピーディーかつ適正な評価を実現し、様々な領域のニーズに応えます。

- ・不動産鑑定評価業務(法3条1項業務)
- ・価格調査業務(法3条1項または2項業務)
- ・コンサルティング業務(法3条2項業務)

<http://www.haf.co.jp/>

Dサポート株式会社

マネジメントの父、P.F.ドラッカー教授のマネジメントの原理原則を実践的に学ぶための場を全国各地で創出しています。

- ・会員制の経営者勉強会「ナレッジプラザ」の企画運営
今年20周年を迎える学びの場。月1回の定例会を中心に、読書会、研究会を道内4カ所(札幌、旭川、帯広、函館)のほか、東京でも開催しています。
- ・経営者セミナー & 社員研修
昨年は、これまでの参加企業の成果事例が『ドラッカーを讀んだら会社が変わった!』(日経BP社)として出版されました。

<http://d-support-ltd.jp/>

片山社会保険労務士事務所

当事務所は、開業20年になる中堅事務所です。IT関係に強く、電子申請がスタートした当初から事務所の電子化を促進しており、スピーディーな対応がモットーです。

- 主な取扱い業務は次のとおりです。
- ・労働社会保険各種手続き業務
 - ・就業規則等各種規程作成業務
 - ・人事評価賃金制度構築支援業務

<http://www.office-katayama.biz/>

株式会社

山田エスクロー信託 札幌支店

- ・商事信託
- ・遺言信託
- ・遺産整理業務

<http://www.y-escrow-trust.co.jp/>

北日本シルバーライフ 株式会社

- ・高齢者支援事業
- ・入居身元保証
- ・エンディングサポート

編集後記

今回の誌面を大きく飾っている対談では、職員であってもなかなか聞くことのできないトップ4名揃っての貴重な話を耳にすることができました。プラザ創設に至った経緯や熱い想い、次世代への大きな期待など、様々なテーマについて力強く語られ、経営陣と職員が気持ちを一にする良い機会となりました。

司法書士法人 第一事務所 小林沙弥子

法務・会計プラザ <http://www.hk-plaza.co.jp>

- 弁護士法人 太田・小幡総合法律事務所 … Tel.011-222-3251 Fax.011-222-5127 <http://www.oota-law.com/>
- 司法書士法人 第一事務所 … Tel.011-231-3330 Fax.011-210-0580 <http://www.tazawa-office.jp/>
- 佐藤等公認会計士事務所 … Tel.011-261-4460 Fax.011-261-4422 <http://www.satou-cpa.jp/>
- 株式会社北海道アレイザーズ・ファーム … Tel.011-806-0707 Fax.011-806-0708 <http://www.haf.co.jp/>
- 片山社会保険労務士事務所 … Tel.011-218-2237 Fax.011-261-4422 <http://www.office-katayama.biz/>
- Dサポート株式会社 … Tel.011-261-4471 Fax.011-212-1401 <http://d-support-ltd.jp/>

- パートナース会 … <http://www.plaza-partners.jp/>
- 行政書士第一事務所 … Tel.011-261-1170 Fax.011-211-5590 <http://www.tazawa-office.jp/>
- 株式会社山田エスクロー信託札幌支店 … Tel.011-210-0085 Fax.011-211-5590 <http://www.y-escrow-trust.co.jp/>
- 一般社団法人北日本シルバーライフ協会 … Tel.011-242-0155 Fax.011-211-5590 <http://オウカスタイル.com/madoguchi/kitanihonsi.html>
- 北日本シルバーライフ株式会社 … Tel.011-242-3371 Fax.011-211-5590
- 介護福祉サーベイジャパン株式会社 … Tel.011-261-0025 Fax.011-261-4422 <http://caresurvey.co.jp/>
- 株式会社NEXTリレーション … Tel.011-212-1501 Fax.011-212-1401 <https://www.facebook.com/hkinnovationplaza/>